

# 気候変動・調達リスクへの取組み

2021年9月21日  
取締役 兼 上席執行役員  
最高ESG経営責任者(C"ESG"O)  
門田 隆司

- 1. 不二製油グループとマテリアリティ**
2. 気候変動リスクへの取組み
3. 調達リスクへの取組み

# 不二製油グループの紹介/ビジネスモデル

主要原料

不二製油グループ

顧客

消費者



パーム油



カカオ



大豆

## 植物性油脂事業



食用加工油脂



チョコレート用油脂

## 業務用チョコレート事業



チョコレート

## 乳化・発酵素材事業



クリーム



マーガリン



フィリング

## 大豆加工素材事業



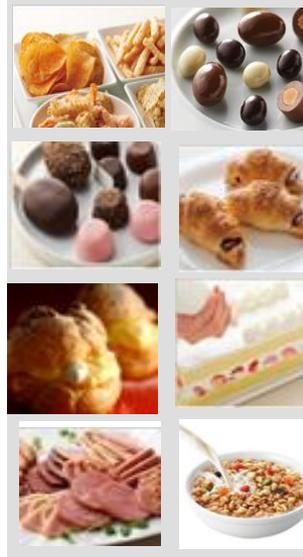
大豆たん白素材



機能剤  
水溶性大豆多糖類

- ・食品メーカー
- ・飲料メーカー
- ・製菓メーカー
- ・製パンメーカー
- ・リテール
- ・外食チェーン
- ・学校給食
- ・医療機関

etc.



食のさまざまな  
シーンでおいしさ  
を提供する

**B to B の  
食品中間  
素材メーカー**

# 不二製油グループの価値観

1960年に経営基本方針を策定し、  
1981年に3か条に再編

## 経営基本方針

顧客への貢献が、果し不断発展の因

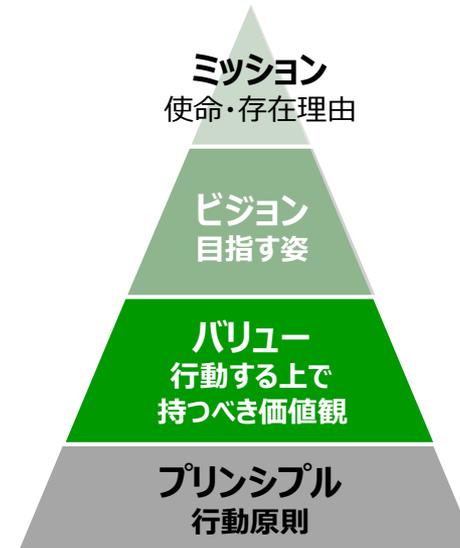
創造精神がモチ、常ニ革新ニ挑ム

自己啓発が熾ニシ、人格向上ヲ目指ス

不二製油株式会社



2015年に「不二製油グループ憲法」として再編  
グループ従業員の行動の原理・原則



安全と品質、環境  
人のために働く  
挑戦と革新  
スピードとタイミング

## 「人のために働く」 価値観

= 事業を通じて顧客・社会の困りごとを解決する

= 持続可能な社会の実現なくして、企業は存続できない

# 不二製油グループが取り組む社会課題の設定

## 取り組む社会課題の設定・マテリアリティ作成プロセス



- ・GRI、SASBの開示項目
- ・WBA（World Benchmarking Alliance）の評価基準
- ・SDGs
- ・業界団体が推進するESGテーマ
- ・有識者の助言など

## 2021年度 ESGマテリアリティ

ステークホルダーの関心度	極めて高い	・プラスチック使用の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GRC*1</li> <li>・水資源の保全</li> <li>・資源循環</li> <li>・環境に配慮したものづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の創造</li> <li>・サステナブル調達*2</li> <li>・DE&amp;I*3</li> <li>・気候変動の緩和と適応</li> </ul>
	非常に高い	・アニマルウェルフェア		・食の安全・安心・品質
	高い	・コミュニティとの共生		・労働安全衛生
		高い	非常に高い	極めて高い
不二製油グループの事業への影響度				

- ・※1GRCにはコーポレートガバナンス（取締役会の実効性向上など）と内部統制（グループガバナンス、リスクマネジメントなど）の観点が含まれますが、ESG委員会においては内部統制に関わる項目をモニタリングしていきます。コーポレートガバナンスは取締役会にてモニタリングしていきます。
- ・※2 サステナブル調達の重要な観点に、人権の尊重、生物多様性の保全、森林保全なども包含されています。
- ・※3ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン。

# 不二製油グループの取り組むべき課題と方向性

ESGマテリアリティ		
分野（10）	項目（24）	管掌CxO
食の創造	食資源不足へのソリューション提供	CTO
	健康的な食の提供	
	糖質低減への対応	
	トランス脂肪酸含有量の低減	
サステナブル調達	パーム油のサステナブル調達	CSO
	カカオのサステナブル調達	
	大豆のサステナブル調達	
食の安全・安心・品質	食の安全と品質の徹底	C“ESG”O
労働安全衛生	労働安全衛生の推進	
気候変動の緩和と適応	CO <sub>2</sub> の排出削減	
水資源の保全	水使用量の削減	
資源循環	廃棄物の削減	
	フードロスの削減	
環境に配慮したものづくり	製品・原材料の環境負荷低減	
DE&I	ダイバーシティ経営の実践	CAO
GRC	リスクマネジメントシステム	C“ESG”O
	情報セキュリティマネジメント	CFO
	コンプライアンス	CAO
	グループガバナンス	CSO
	コーポレートガバナンスの向上	CAO

1. 不二製油グループの紹介
2. 気候変動リスクへの取組み
3. 調達リスクへの取組み

# 不二製油グループの取り組むべき課題と方向性

## 気候変動の課題に対しては、CO<sub>2</sub>排出削減等の対応で貢献

ESGマテリアリティ		
分野（10）	項目（24）	管掌CxO
食の創造	食資源不足へのソリューション提供	CTO
	健康的な食の提供	
	糖質低減への対応	
	トランス脂肪酸含有量の低減	
サステナブル調達	パーム油のサステナブル調達	CSO
	カカオのサステナブル調達	
	大豆のサステナブル調達	
食の安全・安心・品質	食の安全と品質の徹底	C“ESG”O
労働安全衛生	労働安全衛生の推進	
気候変動の緩和と適応	CO <sub>2</sub> の排出削減	
水資源の保全	水使用量の削減	
資源循環	廃棄物の削減	
環境に配慮したものづくり	フードロスの削減	CTO
	製品・原材料の環境負荷低減	
DE&I	ダイバーシティ経営の実践	CAO
GRC	リスクマネジメントシステム	C“ESG”O
	情報セキュリティマネジメント	CFO
	コンプライアンス	CAO
	グループガバナンス	CSO
	コーポレートガバナンスの向上	CAO

# 気候変動をめぐる社会の動向

## パリ協定 (2015年)

産業革命以前に比べて2℃未満に抑え、1.5℃未満に抑える努力を追及すること



**2℃目標**  
CO<sub>2</sub> 24%削減



## IPCC 1.5℃特別報告書 (2018年)

地球の気温が上昇し、様々な生態系、及び人間の生活環境に影響を与えると発表



**1.5℃目標**  
CO<sub>2</sub> 40%~60%  
以上削減  
+ サプライチェーン

IPCC1.5℃報告書を受け、  
2019年6月に目標を変更

## 各国のCO<sub>2</sub>削減目標

国・地域	2030年削減目標	基準年	カーボンニュートラル目標
日本	46%削減	2013年	2050年
米国	50~52%削減	2005年	2050年
英国	78%削減(2035年)	1990年	2050年
EU	55%削減	1990年	2050年
中国	ピークアウト	-	2060年

経済産業省 資源エネルギー庁より

# 気候変動による事業への影響（TCFD）

## 気候変動リスク・機会及び財務インパクトの影響度評価

項目		NO	リスク・機会 内容	2℃シナリオ	4℃シナリオ
				影響度	影響度
リスク	移行 リスク	政策・ 法規制	1 環境規制対応コストの増加	↓↓	↓
		評判	2 サプライヤーの森林破壊による影響	↓↓	↓↓
	物理的 リスク	急性	3 異常気象による自然災害の激甚化	↓↓	↓↓↓
		慢性	4 世界的な主要原料の不足懸念・価格高騰	↓↓	↓↓↓
機会	市場	5 PBF(※)市場の拡大 ※PBF(Plant Based Food：植物性食品)	↑↑↑	↑↑	
	レジリエンス	6 気候変動が惹起する新たな健康問題へ対応	↑↑	↑↑	

※各シナリオの具体的な説明内容は資料投影上、割愛しています

※詳細は統合報告書2021およびサステナビリティレポートをご参照ください

統合報告書2021

[https://www.fujioilholdings.com/ir/library/integrated\\_report/](https://www.fujioilholdings.com/ir/library/integrated_report/)

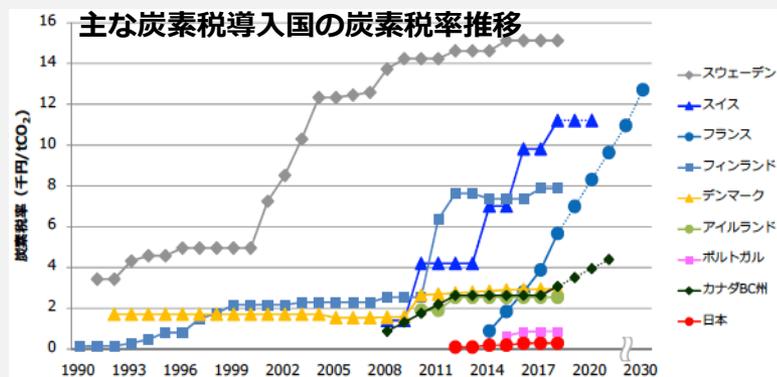
サステナビリティレポート

<https://www.fujioilholdings.com/sustainability/>

# 気候変動による事業への影響（環境規制対応コストの増加）

## 炭素税の増加

各国の炭素税は年々増加傾向。将来も増加の予測。



出所：「カーボンプライシングのあり方に関する検討会」取りまとめ

[https://www.env.go.jp/council/06earth/y0619-01/ref01\\_02.pdf](https://www.env.go.jp/council/06earth/y0619-01/ref01_02.pdf)

## 国境炭素税

EUがまずは温室効果ガス排出量の多い5品目を対象に「**国境炭素税**」の概要を発表

## 顧客からの要請

欧米企業を中心に各社高い目標を掲げている。**サプライヤーに対してもCO<sub>2</sub>削減要請の増加。**

## リスク

- ・環境規制強化によるコスト増の可能性
- ・顧客からのCO<sub>2</sub>削減の要請に対応出来ないことによる取引の減少・停止の可能性

# 気候変動による事業への影響への対応

## リスク

- ・環境規制強化によるコストの増加の可能性
- ・顧客からのCO<sub>2</sub>削減要請に対応出来ないことによる事業継続への支障



## 対応

### 環境ビジョン2030 の推進

【2030年目標（基準年：2016年）】

- |                      |  |
|----------------------|--|
| ① CO <sub>2</sub> 排出 | スコープ1と2の総量で40%削減<br>スコープ3（カテゴリ1）で18%削減 |
| ② 水使用量               | 原単位で20%減                               |
| ③ 廃棄物量               | 原単位で10%減                               |
| ④ 資源リサイクル            | 再資源化率99.8%以上を維持                        |

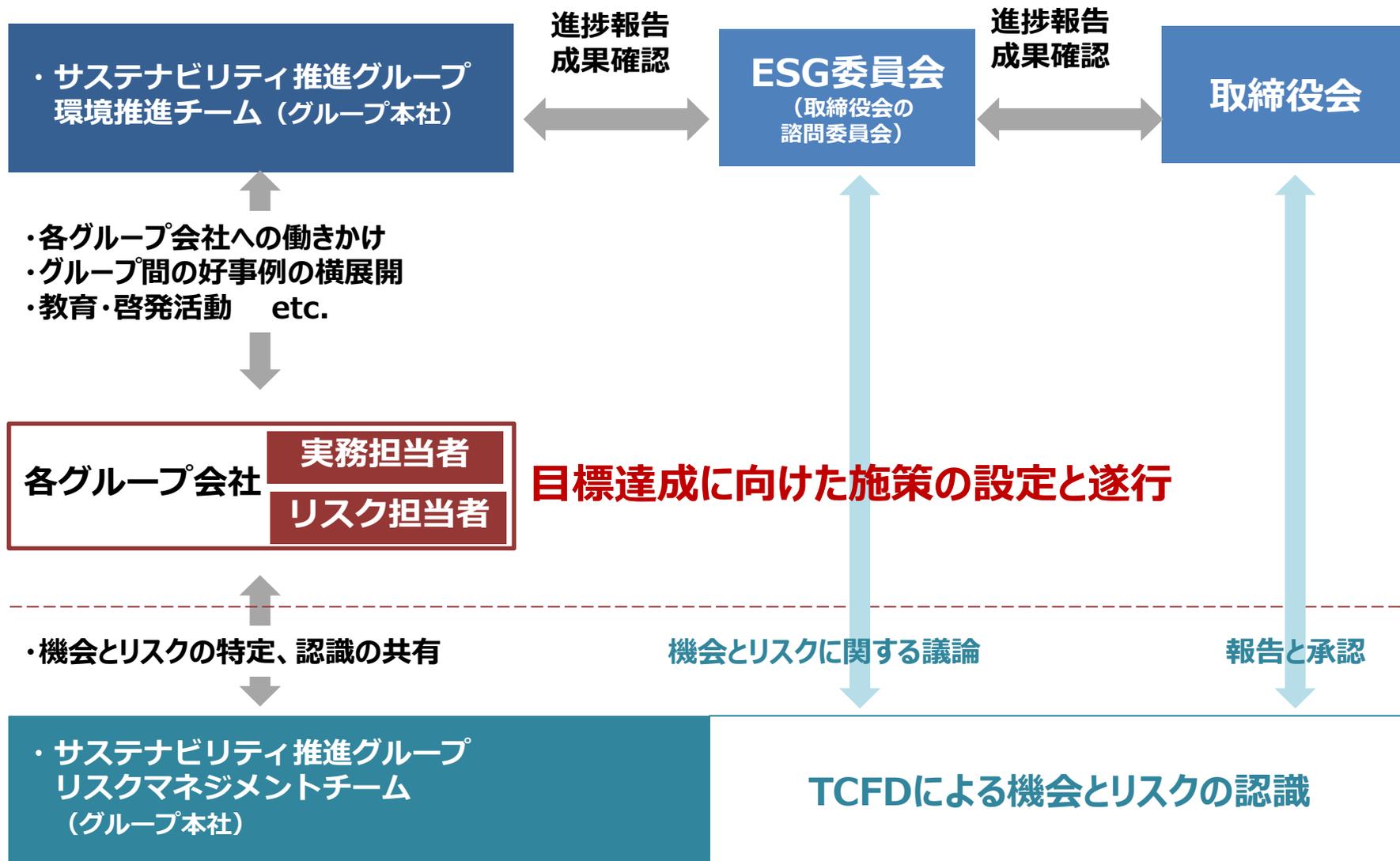
①～③不二製油グループ全体、④日本適用



温室効果ガス中期削減目標が国際的なイニシアチブである「Science Based Targetsイニシアチブ」により承認

# 環境数値の目標達成に向けた推進体制

## <推進体制>



# 取組み事例と進捗

## 取組み事例

- ・エネルギー源の改善（太陽光発電の導入の推進）
- ・システムの効率化



## CO2排出量削減進捗



1. 不二製油グループの紹介
2. 気候変動リスクへの取組み
3. **調達リスクへの取組み**

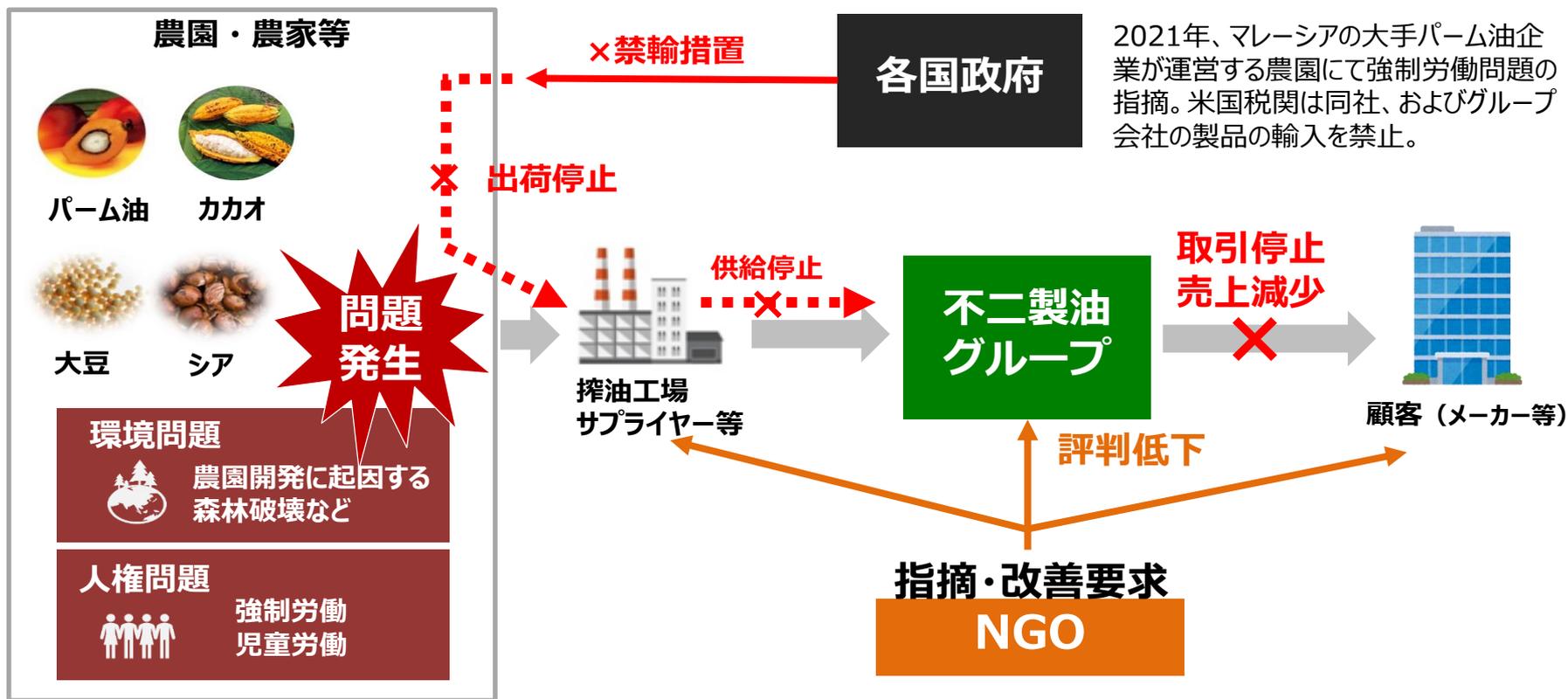
# 不二製油グループの取り組むべき課題と方向性

## 調達における課題・リスクへの対応のために「サステナブル調達」を推進

ESGマテリアリティ		
分野	項目	管掌CxO
食の創造	食資源不足へのソリューション提供	CTO
	健康的な食の提供	
	糖質低減への対応	
	トランス脂肪酸含有量の低減	
サステナブル調達	パーム油のサステナブル調達	CSO
	カカオのサステナブル調達	
	大豆のサステナブル調達	
食の安全・安心・品質	食の安全と品質の徹底	C“ESG”O
労働安全衛生	労働安全衛生の推進	
気候変動の緩和と適応	CO <sub>2</sub> の排出削減	
水資源の保全	水使用量の削減	
資源循環	廃棄物の削減	
	フードロスの削減	
環境に配慮したものづくり	製品・原材料の環境負荷低減	
DE&I	ダイバーシティ経営の実践	CAO
GRC	リスクマネジメントシステム	C“ESG”O
	情報セキュリティマネジメント	CFO
	コンプライアンス	CAO
	グループガバナンス	CSO
	コーポレートガバナンスの向上	CAO

# 調達における課題とリスク

- 課題：環境、人権問題を抱える農園が存在
- リスク：課題のある農園からの原料の**禁輸措置**、また**間接的な関与と見なされ** 自社グループの評判が低下し、売上高の減少に繋がる

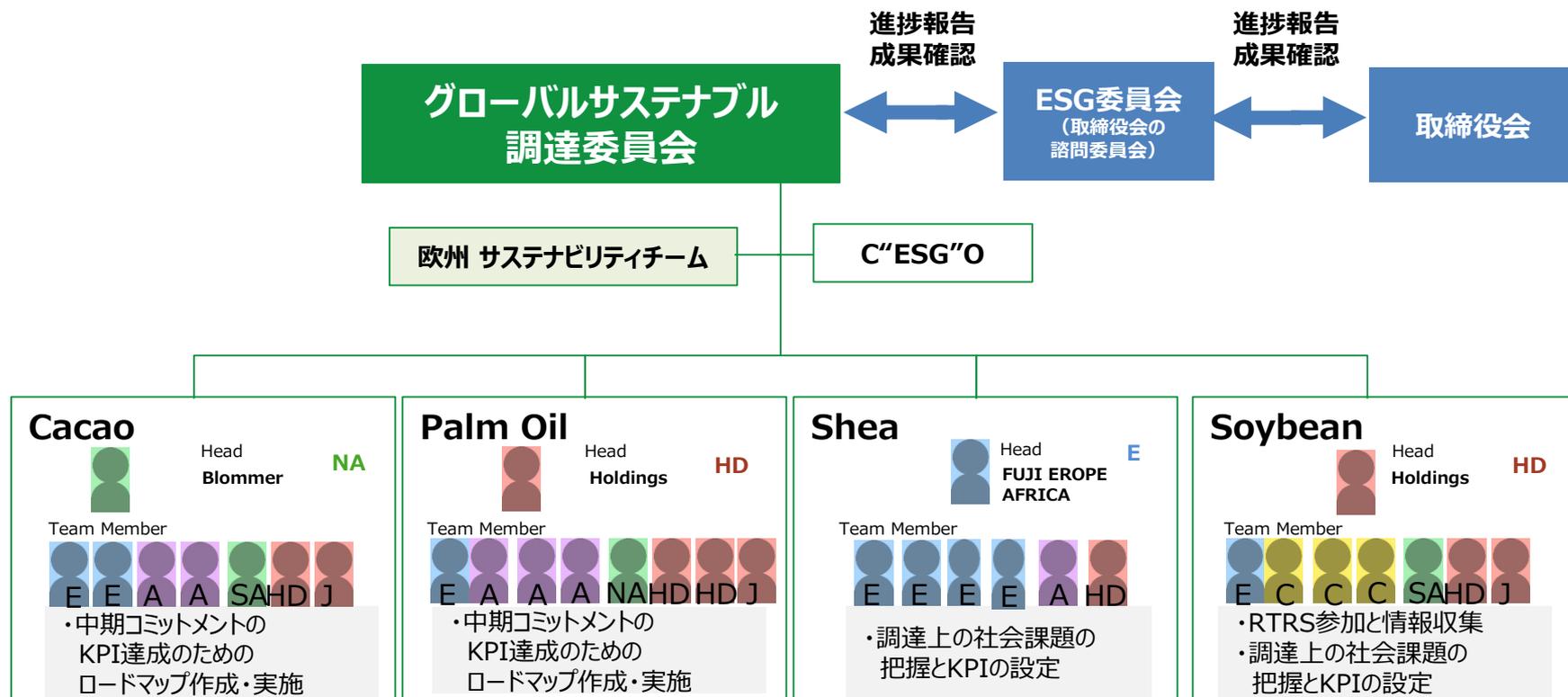


# サステナブル調達の方針

原料	調達方針
<p>パーム油</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・森林破壊ゼロ</li><li>・泥炭地開発ゼロ</li><li>・搾取ゼロ</li></ul>
<p>カカオ</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・農家の生活環境改善</li><li>・サプライチェーンの児童労働撤廃</li><li>・森林破壊防止と森林保全</li></ul>
<p>大豆</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・生物多様性の保護と森林破壊ゼロ</li><li>・先住民、地域住民及び労働者への搾取ゼロ</li><li>・コンプライアンスの順守</li></ul>
<p>シアカーネル</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・森林保全</li><li>・女性のエンパワーメント支援</li></ul>

# サステナブル調達推進体制

グローバルにサステナブル調達の推進を行う為、サステナブル調達委員会を設置。



(※凡例：E=「Europe Africa」、A=「Asia」、C=「China」、SA/NA=「South/North America」、HD/J=「Holdings/Japan」)

# パーム油のサステナブル調達の実践例（グリーンバンスメカニズム）

- ・パーム油サプライチェーン上の人権・環境問題を受け付け、改善するための仕組み
- ・直接サプライヤーへの働きかけが基本的対応
- ・2020年度より、グリーンバンスを受けた企業の親会社グループまで対象範囲を拡大



# カカオのサステナブル調達の実践例（アグロフォレストリー）

## 植樹により土壌改善、農家の利益獲得に貢献



ガーナ西部のカカオ農園、周辺地域の例

森林破壊による  
生物多様性の喪失

温室効果ガス排出量増加による  
洪水や干ばつの被害

様々な種類の  
緑陰樹の植樹

KPI：2030年度に100万本  
2021年は10万本を計画

生物多様性を高め  
土壌改善に貢献

植樹後に収穫した果実等の  
販売による農家の利益獲得

今後の課題

・カカオ豆の生産性、農家の収入にどのように寄与したか  
検証し、より効果的なアプローチへと都度見直しが必要。

# サステナブル調達を進捗と外部の評価

## 進捗

中長期目標		2020年度	2025年度	2030年度	最終目標
パーム	森林破壊防止	TTP 71%	TTP 75%	TTP 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林破壊ゼロ</li> <li>泥炭地開発ゼロ</li> <li>搾取ゼロ</li> </ul>
	搾取防止	労働環境改善プログラム適用率10%	労働環境改善プログラム適用率100% (主要子会社)	労働環境改善プログラム適用率100% (全直接サプライヤー)	
カカオ	児童労働撤廃	ブラマーがカカオ豆を直接購入している協同組合の100%にCLMRS*1を構築	WFCL*2 ゼロ	児童労働ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童労働撤廃</li> <li>森林再生</li> </ul>
	森林再生	植樹1万本	植樹50万本	植樹100万本	

\*1 CLMRS: 児童労働監視改善システム

\*2 WFCL: 最悪の形態の児童労働

## 顧客の動向・評価

### (欧州)

持続可能なパーム油のシンプルなサプライチェーンの構築が高評価。

### (東南アジア)

持続可能なパーム油の供給スキームが評価され、大手顧客よりグッドサプライヤー賞を受賞。

### (日本)

サステナブルなパーム油、カカオに関する引き合いが増加、相談件数も増加し、関係力強化へ。

## 社会からの評価



CLIMATE FORESTS WATER

2020年12月  
CDP気候変動・森林・水セキュリティにて  
トリプルA評価  
(約9,600社中10社、日本企業は2社)

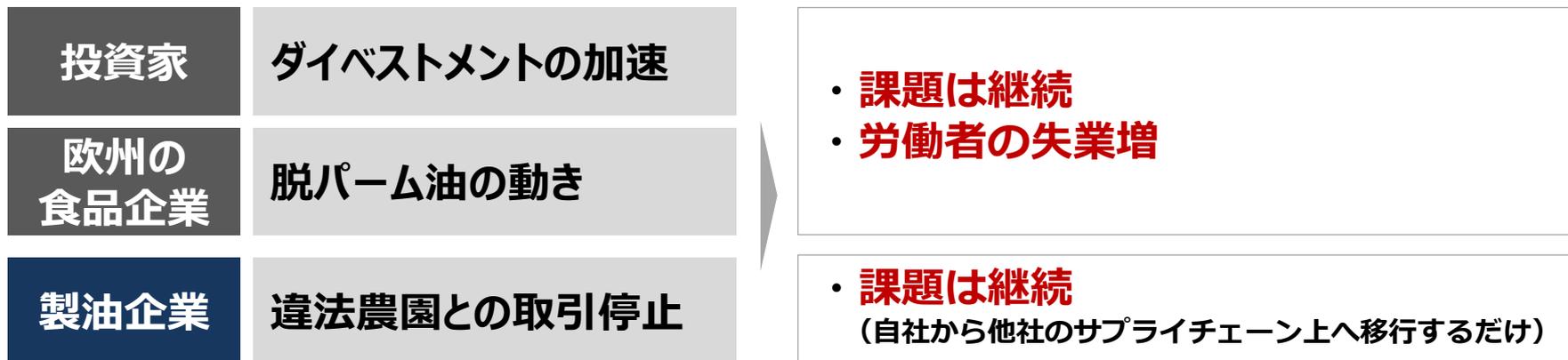


2020

2021年2月  
「サプライヤー・エンゲージメント評価」  
で最高評価の「リーダーボード」に選出

# 調達課題の解決に向けて

## ✓ 「課題解決」ではなく「排除」が引き起こすもの



## ✓ 不二製油グループが目指すもの = 社会課題の解決への貢献



- ・ 直接サプライヤーへの働きかけ・協働を重視
- ・ 労働環境改善プログラムの導入により、改善に向けての施策を推進中。



 **不二製油グループ本社株式会社**

